

國際法雜誌第一號
 明治三十五年二月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第一號目次

禁 轉 載	
發刊の辭	男爵 金子堅太郎君
祝辭	公爵 近衛篤磨君
祝辭	
論說	國際法研究の必要 法學博士 寺尾 亨君
	外國人の地位を論ず(未完) 東京法科 山田 三 夏君
	國際法上の重要文書に關し 大學教授 有賀長雄君
	外務當局者に對む 法學博士 中村 進 午君
	政治犯人引渡論 法學博士 米田奈良吉君
	クフィン博士近著中に於け る日本(未完)
新刊書目	
公文	北京議定書并關係書類 漢語滿洲語法會議同草
	日本赤十字條例
	英米新運河條約(原文及譯文)
撰定譯字	
時事	
會報	
外國文	
	發刊之辭(佛文)
	海上國際法中の缺點(英文)
	法學博士 高橋作衛君

國際法雜誌

第壹號

國際法雜誌第二號
 明治三十五年三月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌

第貳號

禁 轉 載	
論 說	日英協約論 東洋に於ける露西亞人の舉動 外國人の地位を論ず(承前) 東京法科大学教授 山田三良君
講 演	右賀博士の外交文書に關する意見を讀んで感あり 高橋法學博士に答ふ 吾人の戰爭觀 法學博士 高橋作衛君
史 傳	日英同盟後の日本 日英同盟後の日本 日英同盟後の日本 法學博士 守尾 亨君
新 刊 書 目	ローラン、ジャクマン 博士の逝去を悼む 法學博士 高橋作衛君
公 文	日英協約(印文及英文) 北京議定書及關係書類(完結) 譯文(印文及英文) 北京議定書及關係書類(完結) 譯文(印文及英文) 北京議定書及關係書類(完結)
仲 裁 判 例	譯文(印文及英文) 北京議定書及關係書類(完結) 譯文(印文及英文) 北京議定書及關係書類(完結)
雜 報	歐洲通信 法學博士 高橋作衛君
時 報	法學博士 高橋作衛君
會 報	法學博士 高橋作衛君
外 國 文	千八百七十年以來日本帝國中立始末 法學博士 高橋作衛君

國際法雜誌 每月一冊（十一月發行）
 明治三十五年四月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第三號目次

論說

宗風税問題と仲裁裁判 東京法科 山田三真君
 クリン博士近著中に於ける日本 法學士 米田釜真吉君
 露佛宣言の疑義 法學博士 戸水寛人君
 政治犯人不引渡論 法學士 嶋川新

新刊書目

公文

海峽電報線保護萬國聯合條約副則
 露韓條約(馬山浦附近巨濟島不割讓條約)
 露佛宣言 東京兵庫長崎に於ける地券様式
 萬國々際法協會議事録及條約綱要
 暴動國の既設且承認政府に對する權利及義務
 千八百七十八年サンステアノー露土境界條約

雜報

歐洲歷信 英國の國際法協會副會長 高橋作衛君
 國際時事評 法學士 嶋川岳南君

時事

會報

外國文

比較親族法(破倫行爲論) 東京法科 大學教師 ルイ・ブリタル君

國際法雜誌

第參號

明治三十五年六月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第五號目次

論說	條約の解釋を論ず 外國人の地位を論ず	法學博士 寺尾 亨君 法科大學教授 山田三頁君
新刊書目	砂糖獎勵金に關する萬國會議條約、濠洲新西蘭移住制限法、フクリン群島臨時收入法、北米合衆國支那人排斥法(英文)	
公文	萬國々際法協會議事錄 千九百年萬國々際法協會決議(暴動國の既殺且承認政府に對する第三國の權利義務)	法學士 米田奈良吉君
禁轉載	條約綱要 伯林會議の一般議定書	法學士 高橋清一君
雜錄	疑問一東(國際公法上の主權に就て、理論國際法なるものも存在に就て、國內法規を以て國際私法を規定するの要否、外國人なる文字に就て、國際私法なる文字に就て、吾國法は果して内外人平等主義を採れるか)	法學士 樋川 智君 法學士 加藤 豐次君 法學士 加 經 豐 次君
時事會報	外交機關 比律賓委員陳情書 本誌に對する歐洲國際法學諸大家の説	法學士 水野 健太郎君
外國文論文	附副島伯の明治初年我邦の外交に關する諸演說記録 著作權法論	法學士 水野 健太郎君

國際法雜誌

第五號

國際法雜誌第四號每月一日(十一日發行)
 明治三十五年七月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌

第六號

禁 轉 載	
國際法雜誌第六號目次	
論說	外國人の地位を論ず(外國人の公法上の義務) 法學博士 山田三 真君
新刊書目	歐洲公法學者の戰爭觀並びに平和觀 法學士 嶋川新君
公文	佛國丁球外三國間通商及工商標保護協約、在天津帝國專管居留地の土地に關する件、馬山日本專管居留地取極書、北米合衆國支那人排斥法(承前、英文)
萬國國際法協會議事錄	千九百年萬國國際法協會決議(暴動國の既設且承認政府に對する第三國の權利義務) 法學士 米田泰 真君
條約綱要	伯林會議一般議定書(承前) 法學士 高橋清 一君
判決例	國際破産に關する大審院判決例 法學士 篠田治 策君
雜錄	疑問一夾(對外主權なる文字に就て、所謂ゆる對外主權の享有は特に他國の承認を要するか、一部主權國なる文字に付て、未開國に對する關係に就て) 法學士 嶋川 岳 南君 本誌に對する歐洲國際法學諸大家の致辭 法學士 加藤 豐 次君
時事	報附副島伯の明治初年我邦の外交に關する簡潔速記錄
外國文論文	著作權法論(德文) 法學士 水野鍊太郎君

國際法雜誌第七號每月一回(十一日發行)
 明治三十五年九月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第七號目次

論說

國際法上權衡的制裁の存在に就て(未完)
 以大利ヒーズ大學國際法教授

アレキサンデル、コルシエ氏原著
 法學士 加藤 謙次 君譯

歐洲公法學者の戰爭觀並に平和觀

法學士 繪 川 新君

新刊書目

南阿蘭和條約、露國義勇隊會社定款、派洲聯邦居住
 證明書出願書式並身分申告書格式、英國工業所有權條
 約に關する條約修正追加條約、及右に關する外務省告
 示第九號

條約綱要

伯林會議一經議定書(完) 法學士 高橋 清 一君

雜錄

歐洲 雁信 幹 事 加 藤 謙 次 君
 ウエスニウチ氏及カアラニエ氏の書簡
 立作太郎氏と英國倫敦のコンマース記者の對談(家屋
 稅問題に付て英文) 附立氏の論旨の一端(和文)
 雜問(國際法上の權利と國內法上の權力) 繪 川 新君

會時

在佛國長岡春一氏よりの來信 幹 事 繪 川 新君
 (米露のベールینگ海に於ける漁業問題に關する
 裁判、ワイマー事件の仲絶々判決決定、三國問題)

報事

沿海貿易權に關する本會六月例會の討論速記錄

外國論文

著作權法論 法學士 水野 鍊太郎君

國際法雜誌

第七號

國際法雜誌第八號每月一頁(十一日發行)
 明治三十五年十月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第八號目次

論說

元外國人居留地内邊物課稅問題ノ仲裁ヲ刊
法學博士 有賀 長 雄 著
 國際法上種族的制裁ノ存在ニ就テ(承前)
以 太 利 大 學 國 際 法 教 授
アレキサンデル・コルシエ 氏 著
法 學 士 加 藤 豐 次 君 譯

新刊書目

家國稅問題仲裁ヲ刊ニ關スル議定書暨ヒ附屬往復文
(日本文書、原文、英文、法文)
 濟國輸入稅率改定取極書(日本文書、原文、英文)
馬山浦檢稅規則
 戰爭船舶國籍出入ニ關スル法令
北米合衆國支那人排斥法關係法規(承前、英文)

條約網要

暹羅國及メーコン河上流ニ關スル英佛協約
法 學 士 加 藤 豐 次 君

雜錄

歐洲雜信
幹 事 加 藤 豐 次 君
 ○アルペリクローラン氏ヨリ本會金子男爵ニ宛テタ
ル書翰
 ○在佛國島國卷一書ノ通信
以 太 利 國 王 ノ 癸 乙 行 ト 三 國 同 盟
 ○白耳蘇蘭オスタンド市ニ關カレタル萬國商工會議
文 官 高 等 試 驗 問 題

國際時事

會報

外國文論文

國際法上種族的制裁ノ存在ニ就テ(佛文未完)
アレキサンデル・コルシエ

國際法雜誌

第八號

明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可
 明治三十五年十一月三十日發行
 第四號

國際法雜誌

第九號

禁轉載

國際法雜誌第九號目錄

論說	外國人の私權享有に就て 仲裁の法理 婚姻に關する國際法	法學博士 英國フ 山田三 原一 松本 原著
新刊書目	マルテンス博士露佛條約集第一卷批評 裁判沿革論評	加藤 豐次君報
公文	歐洲列國砂礫條約に關する露國政府の抗議文並附屬書 紙幣條例○韓國通用白銅貨偽造懲罰規則○北清事變個人損害賠償支拂の件○南米委內瑞拉國外國人取調に關する法令○北米合衆國支那人排斥法關係法規(承前英文)	加藤 豐次君報
仲裁裁判決例	○佛英間ウエイマ事件仲裁裁判決 ○佛英間セルロマン、マラミス事件仲裁裁判決	米田奈夏君報
條約綱要	フリニクスセル會議一般議定書(千八百九十年七月十二日)	高橋清一君報
雜誌	○歐洲飛信カアラニー氏書翰 ○外交官及領事官試驗問題	加藤 豐次君報
國際時事	○總東の反響 ○西亞細亞問題 ○歐洲電音 ○米國時報 ○澳洲飛信	加藤 豐次君報
會報	本年十月國際法學會例會記事	加藤 豐次君報
外國論文	附 深井英五君の倫敦タイムズ通信員に關する講話 國際法上の積極的制裁の存在に就て(佛文完)	加藤 豐次君報
疑問(一、國際法の原理に反する觀念(佛文))	トレンキヤン、コムシー氏	加藤 豐次君報
	法學士 總 川 新君	

明治三十五年十二月十一日發行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第十號目次

論說	論歐中の日本觀 仲義の判の法理(承前完結)	法學博士 寺尾 亨君 法學士 杉原 一 雄君
新刊書目	ビレー氏現時戰爭法論評	
公文	價格表記信書及箱物交換約定○小包郵便物交換條約○臺灣人亞米利加合衆國及其領土内渡航證明規則○北米合衆國支那人排斥法關係法規(英文完結)○葡邊領事裁判權に關する千九百年四月七日の法律	
雜錄	萬國の照法學會參列記事概略 戰時に於ける海底電線に關する學說 立作太郎氏書翰	法學博士 寺尾 亨君 米田 奈 瓦 吉 君
國際時事	絕東の反響、歐米飛信	岳 南 君
會報	國際法學會十一月例會記事 倫敦タイムズ通信に關する記事の正誤 會員名簿	幹 深 井 英 五 君 事
外國文論說	大日本帝國中立始末(リノイス事件に關する私見) 國際法上ヨリ書寫レタル政治犯法學士	法學博士 高橋 作 齋 君 法學士 嶋 川 新 君

國際法雜誌

第十號

明治三十六年一月十一日発行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第十一號目次

論說

漢德兩國海法會議(加藤正治君稿) 法學博士松波仁一郎君
 第二十世紀の始めに於ける國際法 法學士嶋川新君
 干渉の定義 法學士加藤豐次君
 國際法上の積荷的對換の存在に就て 以太利ビーズ大學教授アレキサンデルコルシニ氏原稿
 法學士加藤豐次君譯
 法學博士戸水寛人君

講演
 滿州鉄

新刊書目

公文

○露領沿海州及黑龍州地方規則施行○關領印度風味員等採購規則○華盛頓締結債權表記債書及補物交換約定の施行銀行

條約綱要

暹佛條約(千九百二十年十月七日調印) 法學士加藤豐次君
 歐洲雁信(○ウァロト)氏禮狀(○ナイス氏の書翰) 幹事米田泰吉君

國際時事

○歐洲の消息○米國記者○阿弗利加的現今○滿洲近狀○亞細亞時報

外國文論說

破産に關する國際關係に付ての規則
 萬國國際法協會委員確定提案

國際法雜誌

第十一號

本誌は毎月十二日（十一月十一日）発行
 昭和三年四月十一日発行
 明治三十五年二月十二日第三種郵便物認可

國際法雜誌第十二號目次

論說

戰時禁制海運論 法學士 遠藤 源六君
 第二十世紀の始めに於ける國際法 法學士 國カネヲ二博士原著
 法學士 加藤 豐次君共譯

國際法上の積極的制裁の存在に就て(完結)
 以本利ビズ大學教授アレキ
 サンドルムシ氏原著
 法學士 加藤 豐次君譯

東京帝國大學法科國際公法演習報告
 法學博士 高橋 作衛君
 小川 御太郎君

最悪國債款
 法學士 山川 端夫君

講演
 暹羅國に就て

新刊書目

○布哇銀貨及銀貨證券に関する法律
 ○英國政府正檢査規則
 ○清國吉林省礦務章程
 ○外務省告示第一號
 ○韓國政府赤十字條約加蓋

雜錄

千九百二十年白耳義ふるセル市開會國際法協會參列報告
 法學博士 寺尾 亨君

國際時事

○歐洲の消息
 ○美國記事
 ○阿弗利加及澳洲の現時
 ○亞細亞時報

會報

萬國國際法協會
 調査委員 ローレン氏

外國文

破産に関する國際關係に付ての疑問

國際法雜誌

第十二號

國際法雜誌第十三號第八一頁(十一)頁
 明治三十六年五月十一日發行
 明治三十六年四月三十日第三號發售開始

國際法雜誌第十三號目次

論 說

戰時禁制海運論

法學士 遺 福 源 六君

東京帝國國際法演習報告

大憲法科

在法科大學 太田一 耶君

討 論

軍艦ニアラサル國家ノ船舶ハ(國有タルト私船ヲ借上ケタル場
 合等ヲ含ム)外國ニ於テ如何ナル取扱ヲ受タルカ

新刊書目

公 文

○韓國中央銀行條例○韓國兌換金券條例○蒙州移民制限法除外
 例停止○喜望峯殖民地移住制限法○福州水先案内人規程○外國
 貨紙幣偽造取締規則○通信省告示第二百五十三號

條約網要

智利哥倫比亞兩國間同盟條約

雜 錄

讀書紙上ニ於ケル滿洲問題ニ關スル論議

國際時事

○滿洲情勢○國際條件○南洋時報○韓國時事

會 報

國際法雜誌

第十三號

國際法雜誌 第十四號

會報

三月五日例會議事速記

論題

出題者 中村進午君

千九百一十年濠洲移民制限法（國際法雜誌第二號八十九頁以下同法第三條第五條等）中に歐洲語の何れかにて自己の名を署することを得ざるものは濠洲に入るを許さず又既に濠洲に在る者に對し歐洲語中五十字に付試験をなし不合格者を國外に放逐すとのことあり之れに對し日本は抗議を呈する權利なきか

○加福豊次君 皆さんも御存じでございませうが、千九百一十年の濠洲移民制限法に歐洲語にて五十語以上書取り且つ歐洲語で署名することの出来ない者は濠洲に行くこ

とが出来ない、又今日まで現に濠洲に居た者も之れに合格しなければ國外に放逐すると云ふことがありますが、我國はそれに向つて抗議を提出することが出来るかどうかと云ふ問題を討議致したいと思ひます、それに付ての公文は本會雜誌第二號八十九頁以下に載せてありまして、其前の方には原文も添えてあります、多分皆様も御承知のことと考へますが其要點だけを朗讀致します

第三條（イ）官吏の要求ありたるとき其面前に於て其指定せる歐洲語を以て語數五十箇の章句を書取り且つ署名すること能はざる者

第五條

（一）官吏を避け又は官吏の配置なき場所より聯邦内に入りたる移民は其後何時にても聯邦内に於て發見せらるるときは第三條（イ）項の規定に應すべきことを之に要求するを得若し其之に應ずる能はざる時は本法違反の禁止移民と認むべし

（二）移民は其聯邦内に入りたる後一箇年内は何時にても第三條（イ）項の規定に應すべきことを之に要求す

會報

一

國際法雜誌 第十五號

會報

暹羅に於ける國際法及び外交問題

稻垣 滿 次 郎君 演說

徇速記事務所員速記

諸君先刻も申上げました如く今夕は暹羅に於ける現今の領事裁判施行上の有様とそれから之れに聯帶しました國際公法上の問題を掲げて實は皆さんの御意見を伺ひたいので、又其問題に付ては彼方で實際仕事をしました際に誠に困難を致した、素より私の學問の狭い所でありませうが度々苦んだ問題もあるので、それでマア領事裁判と云ふものは申上げなくとも分つてゐる其國の主權の一部なる裁判權を條約で以て規定しまして其國に居る自國の臣民を自國の法律で以て裁判をして其國の主權の一部を條約の規定で條約國が取つて居るのです、さて暹羅に於

會報

ける領事裁判のことは日本で條約改正の以前にありまじたる所の領事裁判の施行とは皆さんの想像のお付きにならぬ位に暹羅國にあつては困難をして居るし又事情が餘程違つて居ります、それは我國では歐米諸國と條約を結ぶ際に居留地を設けて其部分に限つて歐米人を住はせて其處で領事裁判權を許して内地雜居も許さなければ又神戸より外は其市に於ても雜居を許して居らなかつた、然るに暹羅に於ては此規定が付いて居りませぬ、盤谷内に於ても外國人が雜居して居ります、それから盤谷府外二十四時間旅行をし得べき里程と三十五キロメートルの間とは外國人が住ふことも出來れば土地を所有することも出來るとなつて先づ盤谷府及び其の府外は皆な外國人も内國人も則ち領事裁判權の下に居る者も暹羅の裁判權の下に居るものも皆な雜居して居る、是れは彼の國で領事裁判權の施行上列國と暹羅との間に非常なる衝突の起ることでありませぬ、それで設令ば暹羅政府で一つの法律を出すと此の施行上に於てはどうしても列國の公使領事の承諾を得なければ此の法律を施行することが出來ない、

國際法雜誌 第十六號

會報

暹羅に於ける國際法及外交問題

補逸

會員 稻垣滿次郎君演說

左の數項は本年五月十三日富士見軒に於て開きたる本會席上に於て稻垣氏の演說されたる一節なれども同氏より之れを公表せざる様希望されたるに付前號には之れを掲載することを見合せ本號は單に會員諸君にのみ頒布することとなしたるを以て之れを本號に載せ會員諸君にのみ報告す

左の數項の始めに甲乙丙丁戊等の字を冠したるは即ち前號二十頁以下に當該文字を挿入したる部に代るべきを示すものとす即ち

(甲) 第十五號第二十頁上段第三行

會報

(乙) 第十五號第二十頁上段第八行

(丙) 同號第二十二頁上段第二十行

(丁) 同號第二十三頁上段第五行

(戊) 同號第二十三頁下段第十九行

(甲) 此兩國の間に秘密條約の様なものを結んで結着して居りますが其問題と云ふものは、馬來半島の諸州は暹羅の領土とは言ひながら、先づ半獨立國である、十分に暹羅の主權は及ばない、所が英から見ると、緬甸と海峽殖民地の間の馬來半島に暹羅領が遡入つて居ると云ふとは、誠に厭なものである、成べくは此緬甸と英の海峽殖民地との間の連絡を付けたならば宜からうと云ふ説を、是は海峽殖民地の總督と、それから彼地方の或る新聞其他が皆唱へて居る、それで折があつたなら馬來半島の州を段々蠶食して往かうと云ふ、即ち新嘉坡のエツキヌエルシヨンにじやうと云ふ一派がある、之が頻りに其説を唱わて居る際に兩國の間に葛藤を生じた、それは千八百九十九年に、暹羅と英との間に境界の條約を結んだが、其條約で馬

國際法雜誌第十七號每月一頁(十一日發行)
 明治三十六年九月十一日發行
 明治三十六年四月三十日第三種郵便物認可

國際法雜誌第十七號目次

論 說

戰時禁制海運論(第三)完結 法學士 蓮 藤 源 六君
 第二十世紀の始めに於ける國際法 伊國 カナフニ博士原著
 (國際行政法)

東京帝國 國際法演習報告
 大學法科

ドイツロル氏最惠國條款論(承前)在法科大學 太田 一 郎君

公 文

○漢洲聯邦憲法○天津日本居留地擴張取極書○合衆國移民法○
 農商務省告示第百一號○外務省告示第第三號○韓國及サルウアド
 ール共和國陸戰の法規慣例に關する條約及ロネネーグア條約の
 原則を海戰に應用する條約加恩○グアラマ共和国赤十字條約
 加恩○同ロネネーグア條約の原則を海戰に應用する海牙條約加
 恩○內務省告示第五十一號○外務省告示第六號トランスグア
 ール及フレンジ、リウアー、壇長地學藝及美術著作權保護萬國同盟
 加入○コ、ス諸島海峽殖長地編入

雜 錄

墨國國法上外國人地位

會 報

國際法雜誌

第十七號